

産業水道常任委員会会議記録

日 時 平成28年8月10日(水曜日)

午前10時 2分 開議

場 所 水戸市議会 第2委員会室

午前11時 2分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

- ① 第49回水戸の萩まつりについて (観光課)
- ② 葉草を活用した官民協働事業について (農業技術センター)
- ③ 水戸の「柔甘ねぎ」のブランド化について (農業技術センター)

(2) その他

2 出席委員(7名)

委員長	栗原文隆君	副委員長	小川勝夫君
委員	綿引健君	委員	鈴木宣子君
委員	田口文明君	委員	渡辺政明君
委員	内藤丈男君		

3 欠席委員(なし)

4 委員外議員出席者(3名)

議長	村田進洋君	議員	田口米蔵君
議員	袴塚孝雄君		

5 説明のため出席した者の職, 氏名

産業経済部長	小田木健治君	産業経済部 技監兼農業 環境整備課長	渡邊雅之君
商工課長	小林一仁君	観光課長	小川邦明君
農政課長	深澤和広君	農業技術 センター所長	清水健司君
公設地方 卸売市場 水道事業者 管理者	綿引正治君	水道部長	関徳彦君
水道部参事	伊藤俊夫君	水道部参事兼 水道総務課長	小田木義弘君
水道部参事兼 経理課長	青木貴君	料金課長	島孝夫君
水道整備課長	橋本大敬君	給水課長	岡田隆君

農業委員会 江 幡 清 美 君 農業委員会 横 山 英 雄 君
事務局 局長 事務 局長
6 事務局職員出席者
法制調査係長 井 原 真 彌 君 書 記 玉 田 誠 一 君

午前10時 2分 開議

○栗原委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから産業水道委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして、川原井浄水管理事務所長が公務出張のため欠席との連絡がございましたので、御報告いたします。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、報告事項の説明を行います。

第49回水戸の萩まつりについて、執行部より説明願います。

小川観光課長。

○小川観光課長 資料の御説明の前に、この場をおかりいたしまして、一言お礼を申し上げさせていただきます。

8月5日から7日まで行われました水戸黄門まつりにつきましては、産業水道委員の皆様方大変お世話になりました、ありがとうございました。5日の花火大会につきましては、約4,500発の花火を打ち上げ、多くのお客様の歓声で盛り上がりを見せたほか、6日には、水戸黄門パレードや市民カーニバル in MI TO、7日には13台の山車巡行やたたき合い、11基の神輿連合渡御など、上市、下市ともに大きな盛り上がりを見せることができました。おかげさまで、多くのお客様に御来場いただくことができました。改めて、産業水道委員の皆様方の御協力に厚く感謝申し上げます。

今後とも、さらなる観光振興に努めてまいりたいと存じますので、御指導、御協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、第49回水戸の萩まつりについて、観光課提出の資料により御説明申し上げます。

第49回水戸の萩まつりにつきましては、四季観光の一環として、日本遺産に認定された偕楽園において水戸の萩まつりを開催し、観光客の誘致促進に努めるとともに、本市観光のイメージアップを図ることを目的といたしまして開催いたします。

期間につきましては、平成28年9月1日から9月20日までの20日間、偕楽園を会場として開催してまいります。

行事の内容につきましては、9月4日日曜日、スズムシの放虫を皮切りに、旅の思い出に記念撮影としまして、水戸黄門漫遊一座や水戸の梅大使、そして、水戸市マスコットキャラクター「みとちゃん」との記念撮影、また、中秋の名月でございます15日には、神楽舞と雅楽演奏会、観月献詠祭を常磐神社の能楽殿で開催してまいります。

18日日曜日につきましては、月見の会と称しまして、俳句大会や踊る奉納、好文亭茶会や野点茶会、そして、会場、偕楽園の見晴らし広場におきましては、キャンドルライトにより園内を演出してまいります。

また、同会場にありますステージにおきましては、日本舞踊や篠笛、吟詠剣詩舞、箏の演奏などがございます。

裏面、2ページをごらんいただきたいと思います。

9月1日から20日までの祭り期間中の行事といたしまして、児童写生大会や市民観光ボランティア歴史

アドバイザー水戸による案内、萩のライトアップを行ってまいります。

広報につきましては、ポスター、チラシの配布や「広報みと」などへの掲載、記載のとおりでございます。

今回の見直し、変更点につきましては、これまでは曜日にかかわらず中秋の名月に行ってまいりました月見の会でございますが、観光客などが参加しやすい日曜日に実施してまいります。

また、歴史アドバイザー水戸による観光案内につきましては、昨年度は土曜日、日曜日、祝日のみとしてまいりましたが、今回につきましては、期間中の毎日行うこととしまして、おもてなしの充実を図ってまいります。

資料の説明につきましては以上でございます。

○栗原委員長 内容について、何か御質問等がございましたら、発言を願います。

[発言する者なし]

○栗原委員長 ないようですので、次に、薬草を活用した官民協働事業について、執行部より説明を願います。

清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 それでは、薬草を活用した官民協働事業につきまして、農業技術センター提出の資料によりまして御説明申し上げます。

まず、1の事業の目的でございますが、水戸市におきましては、第2代水戸藩主の徳川光圀公の命によりまして、身近な薬草の効能、使用法を記した手引書である救民妙薬が策定されるなど、薬草に関する歴史があり、先人から受け継がれるその歴史や学びを現代に広く知らせていくために、市植物公園の薬草園、それから西の谷公園の薬草園等における薬草の紹介、それから栽培等の取り組みを行っております。

そのような中で、今年の5月に、薬草を通した水戸の歴史文化等の資源の活用、魅力の発信に向け、大正12年に創業され、薬酒においても広く事業展開いたしております養命酒製造株式会社から協働事業の提案がなされました。この提案を踏まえまして、本市における薬草に関する資源の活用を行い、本市の魅力向上を図っていくため、協働事業を実施していくものであります。

2でございますが、協定の締結であります。(1)の協定内容といたしましては、薬草を通した新たなにぎわいの創出、市の歴史と薬草への理解による郷土愛、健康意識の醸成、薬草文化の普及、啓発を通じた市のイメージアップ、薬草の産業化による地域産業の発展、市植物公園の薬草園の整備、維持管理が協定の内容となっております。

(2)の協定期間につきましては5年間であります。

(3)の市植物公園の薬草園の整備、維持管理に関する費用負担につきましては、養命酒製造が平成32年度までの5年間に、水戸市に年間200万円の寄附を行うこととなります。

(4)の市植物公園の薬草園の名称につきましては、協働事業のシンボルといたしまして、協定期間中、水戸養命酒薬用ハーブ園と呼称するものとしております。

なお、薬草園の拡張整備、維持補修のほか、公園の東側に薬草の試験栽培を行います実験圃場として、トリアルガーデンの整備を計画しております。

(5)の協定締結日につきましては、既に御案内いたしているところでございますが、先月7月25日に、

養命酒製造からは会長が出席され、高橋市長と協定書を取り交わしているところでございます。同時に記者発表を行い、喫茶フィオレンテで提供する薬膳カレーの試食会も実施いたしました。

ページを返していただきまして、3の平成28年度の協働事業内容と役割分担であります。

具体的な協働事業の内容となりますが、(1)の市植物公園の薬草園の整備につきましては、養命酒側から整備費用の寄附及び薬草に関する知見の提供を受けまして、市が薬草を見る、触れる、食べるという、薬草を身近に感じられる整備を行うとともに、公園内の喫茶フィオレンテにおいて提供可能な薬草の栽培を行ってまいります。

(2)の喫茶フィオレンテで提供する特色あるレシピの開発を養命酒製造にお願いいたしまして、その料理を市が調理、販売することになります。この料理につきましては、現在のところ、薬膳カレーといたしまして、8月6日から土曜日、日曜日限定として提供を開始しております。

(3)の市植物公園30周年記念薬草冊子の制作につきましては、平成29年4月に開園30周年を迎えることもあり、養命酒製造が薬草に焦点を当てた冊子を企画、制作し、市では冊子を活用し、情報発信をするものであります。

(4)の薬草に関するイベントの実施につきましては、健康意識等の醸成を図りながら、新たなにぎわいを創出するため、各種イベントの実施が予定されております。

(5)の薬草文化の啓発、PRにつきましては、上記の事業を通しまして、市の魅力やイメージアップを図ってまいります。

その次のページに、別紙1として、養命酒製造株式会社についてということで、協定いたしました養命酒製造の沿革を記載してございます。

最後のページ、別紙2でございますが、整備計画の概要でございます。拡大しております図面の中の、既存薬草園とあります約1,200平方メートル、これが既存のものでございまして、この左側に650平方メートルの薬草園を新たに拡張するものであります。それから、図面の東側になりますが、この部分を平成30年から、トライアルガーデンとして整備いたしてまいります計画であります。

なお、この寄附、それから、薬草園の整備に伴います補正予算につきましては、9月の定例会に提出させていただく予定でございます。あわせてよろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

○栗原委員長 内容について、何か御質問等がございましたら、発言を願います。

渡辺委員。

○渡辺委員 植物公園の魅力を高めるというようなことで、私は大変結構な、いい官民協働の事業かなというふうに感じております。

そこでちょっと二、三、質問をしたいと思うんですけども、今回、養命酒さんのほうで年間200万円、5年ですから約1,000万円ですね。そういう資金の提供というようなことで、この間協定を結んだというようなことですけども、この200万円というのは、水戸養命酒薬用ハーブ園という一つのネーミング代というようなことなのかなというような気もしておるんですけども、この200万円の活用というのは、どういうものを考えているんですか。整備する費用は水戸市が負担するの。その辺のところはどのなの。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 この200万円の使い方につきましては、今回平成28年度は、先ほど申し上げましたように、650平方メートルの薬草園を拡張する予定でございます。それから、その後につきましては、現在の薬草園の園路というか、木道できているんですが、こういったところが老朽化していて、こういった整備も考えてまいりたいと考えております。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 そうすると、整備をしたり、拡張したりという基本的な原資は、これを使うということなのね。水戸市のほうも幾らか、それは出すんでしょう。何か先ほど、整備する計画を今立てているというお話だったんですけども、それは何か水戸市のほうも考えているんですか。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 この原資につきましては、全て養命酒製造さんからの寄附をもとにしたものでございまして、市からの持ち出しは考えてございません。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 何か、申しわけないなと思うような感じで、今の話聞くと、養命酒さんの名前だけで、植物公園さんに来ている年間の入場者とか、また、薬草のほうに足を向ける方がどれぐらいいるのか。今までは余りいなかったような気がするんですけども、そういう中で、養命酒さんが魅力を感じて、資本を少し投資しようということだと思いませんか。

これ、養命酒さんはほかでもやっているんですか。同じような植物公園とか、またそれに類似した、例えば会津なんかに薬草園ありますよね。そういうところなんかと連携しているという、そういう、ほかの地域でもやっているようなことは聞いていますか。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 水戸市以外の取り組みにつきましては、現在知らされているところにつきましては、埼玉県、それから長野県、山口県等で、事業はいろいろでございます。太陽光発電をされているようなところもございますし、それから、森林の里山事業をされているところ、それから、山口県につきましては、やはり薬用作物の産地活性化事業などをされていると聞いております。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 ちょっと感じたのは、それだけ養命酒さんがここに投資をしているということなので、例えば役割分担というのを見ていただいてもわかると思うんですよ。要は、養命酒さんとしてのメリットというのが余り見えてこないんですよ。できれば、私は、今後の植物公園の、例えばテーマをもうちょっと広く、そういうものを、薬草と、例えばバラならバラとか、そういうふうにしっかりしたテーマを築いて、持っていきべきなのかなというような気もしております。

例えば、養命酒さんがここに出てきたことというのは、例えば水戸には明利酒類さんがありますよね。焼酎があるわけですよ。焼酎があるということは、今、梅酒は健康酒として出ていますよね。テレビでもあれだけスポットで、どんどんやっているわけですから。私なんかは、養命酒さんのネーミングと、明利酒類さんが今やっている百年梅酒とかありますよね。ああいうものをドッキングさせるような、そのつながりをつ

くってあげるような、そういう機能を、水戸市は今度、ちょっと開発していくべきなんじゃないのかなと。せっかく来てくれる5年間なんですから、この間にそういう方法、また焼酎というのは、別に梅酒だけじゃなくて、さまざまなものを薬草酒としてつくれるはずなんです。養命酒自体がそうなんですから。

ですから、例えば水戸の産地で、これから売り出そうとしているもの、例えばイチゴならイチゴ酒とか、そういうものもたくさんできるはずなの。そういうのをノウハウとして持っているのが養命酒さんだと思いますので、そういうところの、やっぱり発展的な、また、それを多角的に活用するような、そういう機能をぜひ水戸市が——農業技術活用センターになるのかな——少し知恵を絞って、イベントなんかも、やはり養命酒さんがここまで出てきているならば、それなりの使い方をしていくべきなのかなというようなことを感じておりますので、意見として述べておきます。今後、ぜひもうちょっと拡大して、また、これ水戸市の、例えば明利酒類さんにすれば、販路の開拓とか、いろんなものにつながって、地産地消にも最終的にはつながってくるというように感じておりますので、御検討のほどをよろしくお願ひしたいと思ひます。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

鈴木委員。

○鈴木委員 私も、今渡辺委員さんがおっしゃったように、本当に養命酒さんといったら、全国でも知らない人はいないという、また、世界にも展開していらっしゃるようなこともお聞きしてまして、本当にその養命酒さんから、ここに協働事業の提案がなされましたと経緯が書かれてあるんですけども、突然来られたのか、それとも、やっぱり全国でも観光という点で、薬草園があるのは全国でもほとんどなくて、水戸市で、ちょっと私、認識していなかったんですけども、先ほど会津はそういう薬草園があるということでお話があったのか、もう一度経緯について御説明いただけたらと思ひます。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 養命酒側でも今、CSRということで、企業の社会的責任・活動ということで、各企業でも今取り組まれているところでございますが、そういったことで、地域と密着するためということで、特に薬草につきまして調査をされていたようなところで、ちょうど水戸市でもそういうところがあるということで、お話が通じまして、マッチングされたということで進めております。

○栗原委員長 鈴木委員。

○鈴木委員 ありがとうございます。

本当に、私も養命酒さん、今回前もっていただいた資料をもとに、ちょっと養命酒さんを少しネットで調べてみたら、本当に先ほどおっしゃったように、埼玉県とか、長野県も本当に大きな駒ヶ根工場ですか、健康の森ということで、すばらしい展開をしていらっしゃる、太陽光発電も埼玉県でやっていらっしゃるということで、本当に水戸市にとってもすばらしい会社が、こうして向こうから名乗りを上げてくださったということで、協定は5年間なんですけれども、本当に地域経済の発展ということから見たときに、水戸市としては、やはりこの5年というスパンの中で、清掃工場も下入野町に移りますし、一つのこういった本当に有名な会社が来てくれるということで、その辺については、何かお考えとかというのはあるんでしょうか。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 確かに協定の内容につきましては5年間ということでございますが、これま

での話し合いの中で、さらにその後につきましても、この5年間に、両者で検討させていただいて、継続できるものであれば、そのような形でというようなお話もいただいているところでございます。

○栗原委員長 鈴木委員。

○鈴木委員 ありがとうございます。

質問は以上なんですけれども、やはり向こうの方は、すごくノウハウをいろいろ持っていらっしゃるということで、先ほどの薬膳カレーを向こうでつくっていたり、本当にやっぱり、今、世の中全体が健康志向ということで、すごく私は、観光の大きな目玉にもなるのではないかなと。また、先ほど渡辺委員さんがおっしゃったんですが、お酒についても、ハーブの恵みという名称のお酒を養命酒さんでつくられていて、本当にラベルなんかもうすごくすてきで、そういったのも試飲ができるコーナーとか、またこのカフェで、そういう薬膳カレーとかというの、先ほどお聞きしたんですけれども、さらにそこも、本当に今、先ほど言ったみたいに健康志向という中で、やはり水戸市でそういった取り組みをやっているということで、また、そこに行けば健康的なものもいただけるというようなことも含めまして、ぜひとも本当に前進的に、私にとっては、大きなすごくすばらしいお話だなと思いましたので、ぜひそういうところも、今後ぜひ検討していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員長 ないようですので、次に、水戸の「柔甘ねぎ」のブランド化について、執行部より説明を願います。

清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 それでは、水戸の「柔甘ねぎ」のブランド化につきまして、同じく農業技術センター提出の資料によりまして御説明申し上げます。

まず、1の事業の概要についてでございますが、茨城県におきまして、青果物の信頼性などが市場で高く評価され、県を代表する青果物産地を茨城県青果物銘柄産地に指定することで、競争力のある産地の育成、振興と活性化を推進しているところでございます。

本市におきましても、農畜産物のブランド化に取り組んでいるところでありまして、そうした中、今回JA水戸の水戸地区ねぎ生産部会が生産する柔甘ねぎが、銘柄産地指定の前段となります銘柄推進産地指定を受けましたので、御報告いたすところでございます。

2の指定の内容であります。対象青果物につきましてはネギでございます。区域を水戸市、それから、出荷組織につきましてはJA水戸の水戸地区ねぎ生産部会といたしまして、水戸市長名で指定を受けております。

それから、3の今後の取り組みにつきましては、銘柄推進産地の指定後に推進体制を確立し、速やかに銘柄産地へ移行することとされております。推進協議会の設立を経まして、推進期間、最短の1年で産地指定を受けるべく、関係機関と連携しながら取り組みを進めてまいります。

下の表につきましては、青果物銘柄推進産地と青果物銘柄産地の指定要件をそれぞれ記載しておりますが、県の標準出荷規格などの共通の要件のほか、今回の推進産地の指定要件としております市場での販売額が、

おおむね3,000万円以上とされておりますが、裏面を見ていただきますと、参考といたしまして、水戸地区ねぎ生産部会の内容をお示しておりますが、既に販売額が9,700万円ほど——平成27年の実績でございます——ということで、推進地区と指定されます3,000万円については既にクリアしております。

それから、今後目指しております銘柄産地の指定につきましては、必要とされる販売額、これがおおむね1億円でございますので、これについてもクリアできる見通しとかがっております。

説明は以上でございます。

○栗原委員長 内容について、何か御質問等がございましたら、発言を願います。

綿引委員。

○綿引委員 私のほうから3点質問をさせていただきます。

まず、今回の取り組みに関しては、私自身も賛成するところではございますけれども、それを踏まえた上で、まずブランド化についての具体的内容。今回、指定内容のところ、ネギというものを指定するところまではやっていると思うんですけども、今後どういった形の展開を具体的に考えているのかがまず1点。

それに伴う予算をどのような形で、水戸市としては捻出をするというか、予算決めをしていくのか。今年度に限れば、平成28年度の10月に推進協議会を設立するわけでございますけれども、その設立に関するところで多分予算を使いますけれども、1点目の質問のところでもありますように、ブランド化をするに当たっては、やっぱりある程度の予算が必要になってくると思いますので、今後どのように考えているのか。

3点目が、平成28年度の産業経済部の主要事業関係資料のところには、私が見た限りのところでは、今回のブランド化に関しては特に載ってはいないんですけども、その中で多分、一番似通っているのが、農林水産業費の9番のところの特産農産物販売促進事業、これは30万円の予算しかついておりませんけれども、6次産業化を含めた中で、農産物加工、販売促進、一連の取り組みを支援し、付加価値の高い特産農産物を創出することにより、農業者の所得向上と地域経済の振興を図るというような目的がなされているものでございますので、それとの関係性について、3点お伺いいたします。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 まず、最初の御質問のブランド化についてでございますが、ブランドと申しますと、私たち、地域のさまざまな自然的条件や食文化を反映した、食に関する地域特産物の銘柄化に伴いまして、消費者から信頼を得るとともに、それに伴って、責任を負うものと認識しているところでございます。

そういったこともございまして、今回、水戸のネギにつきましては、水戸で初めての指定ということもございまして、これを契機に、もっと掘り起こしてまいりたいとは考えているところでございます。ねぎ生産部会の拡大につきましても、栽培方法、それから出荷規格、これらの生産管理体制を保持しながら、生産者及び生産量の拡大に努めてまいりまして、農業経営の安定を図ってまいりたいと考えているところでございます。

それから、予算的なものでございますが、支援措置といたしましては、国の事業と県の事業がでございます。

国の事業につきましては、地域ブランド支援事業といたしまして、100万円を限度に2分の1以内でソフト事業ができるということで、まだ内示には至っておりませんが、既にそのようなお答えをいただいております。それから、ハード事業につきましては、平成28年度はパイプハウス、ネギはビニールハウスの中でつくられるものですからパイプハウスを4棟、こちらは市の負担も含めまして、県の補助事業を導入してまいりたいと考えております。

それから、28年度予算につきましては、30万円の事業を組んでございましたが、当初はこちらのほうには入っていなかったんですが、内容につきましてよく検討いたしまして、こちらの事業も使えれば、検討してまいりたいと考えております。

○栗原委員長 綿引委員。

○綿引委員 それぞれにお答えをいただきまして、ありがとうございます。

最後、主要事業関係資料のところでも御答弁いただきましたけれども、後から——全ての事業がそうなんですけれども、ほかの分野にも言えることなんですけれども、ぼつん、ぼつんといいいものが出てきて、じゃこれやります、じゃ今まで既存のところと改めて、今言ったから連携してやりますとか、ぼつんとやっただめだったらなくなるとか、新しくいいものができてきたから、じゃこれやります、でも、いつの間にか焼き直し、焼き直しで、どうにかなっちゃうみたいなのが、どうしても多く見受けられる部分がありますので、きちんと成果を出していただきたい。

県内初ということで、まだ手探りの部分がある。予算に関しても、国からおりてきて、県からおりてきてというところでお答えをいただきましたけれども、そういった、国がやっているから、県がやっているからではなくて、せっかくそういうものを水戸市として見つけてきて、JAさんと協力をしてやるのであれば、水戸市独自の姿勢というものをもう少し強く見せていただきたい。この形でネギがうまくいったんだったら、じゃ次やりましょうという横展開が必ず出てくると思いますので、そういったものに必ずつながるように頑張っていただきたいと思っておりますので、これは意見として申し上げます。

以上でございます。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

鈴木委員。

○鈴木委員 裏面の参考のところなんですけれども、部会員数が33名で、うち、柔甘ねぎ部員数が21名ということで、作付面積も12ヘクタールとあるんですが、これは結構、市内全域にわたって、それぞれ生産していらっしゃるんでしょうか。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 生産者は市内の方が中心でございます。一部、笠間市とか城里町の方もいらっしゃいますが、出荷基準を同じにしておりますので、水戸地区ねぎ生産部会として出荷してございます。

○栗原委員長 鈴木委員。

○鈴木委員 ありがとうございます。

これは土とか、私も先日、農業技術センターの会合に出させていただいて、柔甘ねぎをいただいて、とてもおいしく、本当にやわらかくて甘いネギだったんですけれども、やっぱり土とか何か、生産段階で特殊な

ものを使ってとか、ちょっとその辺だけ、少しだけ、わかる範囲で結構なんですけど、お願いいたします。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 柔甘ねぎの特徴は、通常ネギは白い部分と緑の部分があるかと思うんですが、ハウスの中で生産しておりまして、白い部分を多くするために、遮光フィルムをちょっと長目にかけてまして、白い部分を多く残して甘味を増させるということでございます。出荷時期も、通常の露地のネギがちょうど切れる時期、6月、7月ころに出荷するということで、値段的にも高い値段が維持できるということでございます。

○栗原委員長 鈴木委員。

○鈴木委員 ありがとうございます。先ほど、県内で初のブランド化ということで、ネギについてはブランド化は初めてということですかね。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 大変申しわけございません。先ほど県内と申し上げてしまったんですが、水戸で初めてということでございます。大変失礼いたしました。

○栗原委員長 鈴木委員。

○鈴木委員 すみません、もう1点だけなんです。出荷先が東京青果と水戸中央青果ということで、この割合というのは大体どの程度で今まで出荷されていたのか、もしわかればお願いいたします。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 申しわけありません、ちょっと割合については把握してございませんが、この2つの市場が大きいもので、このほかにも小さいものについては、東京近郊なり、そういった市場にも出荷しているとうかがっております。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

渡辺委員。

○渡辺委員 この柔甘ねぎ、この間ちょっと、話をしたよね、前回の委員会的时候ね。今回これ、先ほど綿引委員のほうからも話があったように、一過性に終わらせないということが大切であるというようなことだったと思うんですよ。過去にJAさんと連携してやってきたのが、この間も話したけれども、三色いもね。乾燥芋の三色の芋を、お土産用につくりましたよね。そういうのとか、明利酒類さんがやっぱり水戸のお芋を使った一人笑、二人笑、三人笑という焼酎をつくったと思うんですよ。やっぱりどうしても、定着というか、そこまで、最初は花火上がるんですよ、どーんと。そこから先が、何だか継続性がちょっと、パワーがないのかなというようなことを私も感じていますので、ぜひ綿引委員が話したようなことも含めて、しっかり対応していただきたいというふうに思うんです。

これ、柔甘ねぎ部員数が、先ほど鈴木委員のほうからもありましたように、21名なんですよ。9,700万円の売り上げというと、大体平均で、きっと作付の大きいところ、小さいところあると思うんですけども、470万円ぐらいになるよね、一人頭の売上金額がね。そうすると、これ、9,700万円で21名、部員数が33名ということになっているので、もうすぐこれ、1億円はいきそうですよね。9,700万円だから、あと300万円売り上げちょっと上がると、青果物の銘柄産地の指定を受けられる

わけですよ。

そうすると、今後の生産量の拡大とかということは、例えばJA水戸がどれぐらいの、この事業に対して、熱意とか取り組み、そういうものを考えているのか、そういうところを聞いていますか。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 まず、資料について、ちょっと御説明が足りなかったことをおわび申し上げます。参考の販売額9,700万円につきましては、柔甘ねぎ部員だけの金額でございまして、ねぎ生産部会につきましては、約1億8,000万円の売り上げがあるということでございます。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 柔甘ねぎ、9,700万円あるんでしょう。ですから、来年、これがもう少しふえて1億円になれば産地になるんでしょうよ。あと300万円でしょうよ。そういう流れになっているわけでしょう。この流れを見て、JA水戸さんはどういう考えを持っているのかを聞かせていただきたいということです。

○栗原委員長 清水農業技術センター所長。

○清水農業技術センター所長 部会のほうでも、急激な生産量とか生産者の増加があると、出荷基準が崩れる場合があるので、出荷基準、市場の信頼性にもかかわるものがございますから、これを維持しながら、当然生産者、それから生産量、これについては、拡大していきたいというような考えではおります。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 JA水戸さんが、例えば一つのJAの持っている機能を活用して、例えば生産量をもっと上げていきたいんだと。例えば3年後には売り上げを3億円にしたいんだとか、そういう計画とかというのは持っていないの。今この生産している21名の方だけでは、なかなか販路の開拓とか、また市民に対する、そういうもののPRとか、そういうものはなかなか難しいと思うんですよ。そういうものと相まらないと、これ、なかなか伸びていかないと思うし、今の1億円で維持していくのか、それとももう少し、全国のブランドまではいかないまでも、茨城県内、関東地区では、水戸の柔甘ねぎというような形の、そういうブランド化を進めていくのか、その辺の取り組みの熱意というものが、私は大切なのかなと。それには生産量と、それをどうPRしていくのかと、それをサポートするJAさんの考えとか、水戸市はそれに対してどれぐらい、これを本当に、天狗納豆さんの納豆みたいに、もっともっと行政でサポートして、全国ブランドの納豆みたいな形にしていくのかとか、いろいろあると思うので、一番最初のスタートが大切だと私は思うんですよ。

つくっている生産者は21名ですよ。これが例えばこの人たちが、もっと生産者をふやして、もっと拡大していきたいんだという意思があるのか。例えば、この人たちがJAさんとうまくいって、例えばもう少し、こういうPRしてくださいとか、こういう販路の開拓をしてくださいとかという話し合いの場があるのか。その辺のところも含めて、私はしっかりと、これから水戸市はその間に立って、ディレクター役としてやっていく大事な時期だと私は思っているんで、今後、もうこれいいですよ、生産者21名の方が今どういう意識を持っているのか、もっともっと販売量をふやしたい、生産量をふやしたいという気持ちでいるのかとか、それに対してJA水戸さんがどんな対応をしていくのか。水戸市はまた、そういうものを見た上で、どういう取り組みをしていくのか、そういうところをこれからきちっと、やはり見ていただきたいというふうに

思っております。

冒頭言ったように、今までどちらかというと、JAさんと民間が連携してやっていたけれども、最初のときが花火でばーんと上がるんですよ、黄門まつりの花火みたいに大きいのがどーんと。でもすぐ、祭りの後の静けさみなくなっちゃうので、できれば、本当に水戸の21名の方がこれだけやって、一生懸命やって、約1億円の生産額を向上させてきたという、そういうものを感じるなら、もう少しやはり、いろいろ知恵を出してあげないといけないのかなというようなことを感じておりますので、意見として述べさせていただきます。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員長 ないようですので、次にその他に入ります。

委員より何かございましたら、発言をお願いします。

渡辺委員。

○渡辺委員 3つぐらいあるんですけども、まず黄門まつり、大変御苦労さまでした。

とりわけ、これ例年になく、土曜日、日曜日、暑かったと思うんですよ。ですから、本当、観光課の方、また商工課の方、本当にコマネズミみたいに、国道50号をあっちへ行ったりこっちへ行ったり、汗だくたくさんになってやっているのを見させていただいたので、まず感謝申し上げたい。また、敬意を表したいと思えます。本当に御苦労さまでございました。

これは意見ですから、別にいいんですけども、56回を数えてくると、ややもすると、大体パターンがわかってきて、パターンがわかってくるということは、黄門まつりにいろんなところから来る方も、ある程度祭りの内容を熟知してきているというようなことで、これは一般論で言うと、マンネリ化というんですけども、そういう感じかなと。

私も毎年毎年、自分の目で見て、観光、水戸市のほうではカチカチやって、1坪に何人いるから何百万人来たとか、何十万人来たとなるんでしょうけれども、私が自分の目で見て感じる感じだと、徐々にそういう観客というのか、訪れる方の数が、何かちょっと年々、目には見えないような数だけれども、減ってきているのかなというような気がしていることを、まず冒頭お話をしておきたいと思えます。

それで、いろんな方のちょっと意見なども今回聞いてみたんですけども、先ほど言ったような、何か同じような形でというようなことがあって、どうしても実行することに自分のエネルギーを使っちゃうということで、なかなか黄門まつりの見直しとか、また、黄門まつりをさらにどんな形で盛会にさせていったほうがいいのか、その辺のところがちよっと足りないと思うんですよ。そういう意味では、この辺がちよっと今年56回なので、ぜひ頑張ってくださいたいと。

村田議長さんも水戸黄門さんになって、黄門パレードに出たんですよ。すごかったですよ、ファンが多くて。袴塚議員さんもみこしを担いでいただいたり、みんな顔真っ黒ですよ。ですから、それだけみんな頑張ったので、やっぱりこの辺で少しずつ、お祭りの内容などを見直しする時期に来ているのかなと。

例えば、市民カーニバルのこういう中で、あっちがとまっちゃうからこっちを進めるとか、そういう細かいことも大切だけれども、やはり抜本的なことも、もうそろそろ考える時期に来ているので、それは急には

変えられないから、徐々に徐々に、私はそういうものを変えていく必要な時期に来ているのではないのかなと、ちょっと肌で感じたものですから、意見として述べさせていただきます。

それと、もう一つ、実はこの間、水戸ホーリーホックの件なんですけれども、ベトナムのコンフォン選手が出たんですよね。そのときに茨城空港を使って、ベトナムから30人から40人ぐらいの応援団が来て、それで試合には——これ茨城交通との連携でやっていたんですけれども——県内外のベトナム人を無料招待で、300人ぐらい来ているんですよ。NHKのニュースでもやっていました。

やはり、こういうものを行政が傍観者でいては、私はもったいないと思う。今度、ローコストの台湾から来る飛行機が来なくなっちゃったでしょう。だから、やはり一つのきっかけを、もっともっと大事にしていかなきゃいけないのかなと。水戸という名前で、今どンドン、柔味ねぎなんかだって「水戸の」というふうに入っているように、水戸というまちの、そういう部分で頑張っている、そういう地域振興に大いに寄与している、そういうものをもうちょっとアンテナを高くして、私はやっぱり商工関係、観光関係もチェックをしていただきたいなというようなことをお願いしておきます。

あれすごかったですね、テレビのニュースで見たらね。水戸市、何かかかわっているのと言ったら、何もかかわっていないと言うので、何かもったいないなどはちょっと思ったんですけれども、これからもそういう部分では、ベトナムからどンドン来るような話をしていましたので、ぜひ茨城交通さんなんかとも連携してもらえればというようなことをお話をしておいておきます。黄門まつりでも、黄門パレードには水戸ホーリーホックのサポーターが結構、行列出たよね、何だか200人ぐらいね。だから、そういう意味じゃやっぱり、そういう、今度、城里町に持っていかれちゃったから、城里ホーリーホックにならないようにぜひしてもらわないと困りますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

綿引委員。

○綿引委員 私のほうから、2点御質問させていただきます。

まず、先々週ぐらいですけれども、とある団体の国際交流事業で、私のほうでニュージーランドから来た方のホームステイの受け入れをやったんですけれども、そのときにも感じましたし、また、今年の黄門まつりも参加をさせていただいて、結構やっぱり外国人の方、これが観光で来ているのか、定住されている方が、ちょっとわかりませんが、外国人の方も大変多く見受けられるようになってきたと思っております。

近年、インバウンド、今渡辺委員からもお話がありましたように、国際交流、ベトナム等を含めて、水戸は大変活発になってきているというところで、この間のホームステイ受け入れのところの経験で申し上げますと、市内のフリーWi-Fiの整備状況が著しく劣っているなど。丸1日ぐらいですけれども、3日間受け入れをして、1日は都内、1日は水戸市内、ぐるっと一緒に回ってきたんですけれども、都内は、ほぼと言っていいほどWi-Fiがつながり、利用しやすい状況になっている。片や水戸に戻ってくると、住宅地に入っただけで、それはなかなか使いづらいという部分はありますけれども、目抜き通りは1本、あるいは、保和苑なんかも行かせていただいたんですけれども、そういったところで、やはり案内をしているときにWi-Fiが繋がらない。

今の若い方ですと、やっぱりフェイスブック、ここへ行きましたとすぐアップしてくれますし、そういう

ものが、やっぱりちょっと不便だなということを実感いたしましたので、これは意見になりますけれども、整備のほうを進めていただいて、逆にそれを売りにしていくということも手かなというふうに思っておりますので、御検討のほどをよろしく願いいたします。

もう1点は質問になりますけれども、先日の田んぼアート、本当にお疲れさまでございました。年々バージョンアップして、きれいになっていくなどというものを見させていただいて実感しております。

その中で1点、お願いにもなるんですけれども、見晴らし台が去年と同じように設置をされておりますけれども、やはり近年、3世代で見に来る方が多いのかなというふうに感じておりまして、そうすると、仮設の足場ですと、やはり金属部分がむき出しになっておりますので、小さい子に関しては大変危険でありますし、あと3世代で来たときに、おじいちゃん、おばあちゃんに関しても、ちょっと危ないのかなというふうなことを感じておりますし、参加していただいた方の二、三人からも、常設というのは予算の関係もありますし、時期的なものもありますから、それは難しいのは重々承知はしておりますけれども、仮設で続けていくに当たって、もう少し傾斜を緩やかにしていただくことは可能なのか、あるいは手すりなんかを補助的に設ける、あるいは手すりに発泡スチロールみたいなやつを巻いて安全性を確保する、そういったことを今後考えて検討いただけるのかどうか、ちょっとそれについてお伺いいたします。

○栗原委員長 深澤農政課長。

○深澤農政課長 今回の田んぼアートまつりのときの仮設の見晴らし台についてでございますけれども、昨年度も同じような形で3カ年やって、やはり同じような意見を私どもももうかがっております、少しずつグレードアップしている状況でございます。

今年についても、昨年度よりもより足場がしっかりした、結構——昨年は乗ってふわふわするような台だったのを、骨の数をふやしたりということをしたわけですが、今年は事前の問い合わせでも、車椅子で行きたいんだけどもなくてというような問い合わせもございましたし、残念ながら、ちょっとそこまでの対応ができる見晴らし台ではなかったというような反省は、自分たちでも感じております。

来年に向けて、また事業をどうするかということも総合的に検討する中で、この見晴らし台の安全性を高める、また、どなたでも上りやすいような見晴らし台にするということについては検討してまいりたいと思います。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

番外で、袴塚議員。

○袴塚議員 せっかくの機会ですので、すみません、一言だけ。

水戸には、今、萩まつりがここに書いてありますけれども、黄門まつり、梅まつりがございます。この反省会というか、反省する機会が、いつも次の予算のときに反省しているんですよ。やっぱり物事をやったときに反省ってすぐ浮かぶわけです、あそこがこうだった、あそこだった。これが、1年ぐらいたってしまっただけで反省すると、ほとんど反省がなくなって、よかったなど、こういうふうになっちゃうと思うんですね。それゆえに、なかなかいろんな反省ができなくて、毎回毎回、もしかすると年度だけ直して、数字だけ直して、同じものがコピーされて実行委員会に出てくると。こういうふうなことなんだろうと、このように思っているんですが、この反省会は、お祭りが終わった段階、もしくは終わって、決算が大変だとか、いろんなこと

があるかも知れませんが、しかし、それも仕事ですから。だから、しっかりやっていただいて、そして、お金を使い過ぎなかったのか、お金を使った割に効果がどうだったのか。そして、どういうところにまずいところがあって、どんなふうにすればよかったのか。こういうことも、しっかりやっぱり反省すべきだと思うんですね。反省というか、振り返るべきだと思うんです。その中で、新たな案、もしくはやり方の改善、こういうのが出てきて、次のお祭りがさらに活性化して進捗していく、こういうことになるんだというふうに思っていますが、この辺についてはどのようにお考えになっておられるのか、すみません、よろしくお願いします。

○栗原委員長 小川観光課長。

○小川観光課長 先ほど袴塚議員より御指摘がございました、各祭りの反省の状況について御説明申し上げます。

各祭りが終わりました、やはりそれぞれ反省点とかにつきましても、事務局内としては掲げているところではございますが、祭りにつきましては実行委員会という組織でございます。そちらのほうの組織の反省会が、やはり御指摘のとおり、おくれるという部分がございます。その辺は反省点といたしまして、今後改善するなど検討してまいりたいと思います。

○栗原委員長 袴塚議員。

○袴塚議員 この場合、やっぱり補助金というのが出ているんですね。大半が補助金収入、広告収入とかいろんなものも、やる気になればいろいろあるんだと思うんですけれども、大半がやっぱり補助金で運営しているんだと思うんです。その補助金がいかにうまく使われているのかな、使われていないのかな、効果的だったのかなということについては、実行委員会がやっているからということではなくて、事務局さんだけが反省すればいいということではなくて、やっぱり実行委員会においでになっているいろんなセクションの方、自治会の方、女性会の方、高齢者クラブの方、それからいろんなボランティア団体の方、幼稚園、保育園、こういった方々がパレードとかいろんなものに参加しているとすれば、そういう方たちの中で、本来こうだったな、ああだったな、それから商店会の催しなんかも、本来だったらどうすればいいのと、こういうふうなことも、やっぱりあるんだと思うんですね。

ですから、それぞれのブロックでは、恐らく反省はしているんだと思いますけれども、やっぱり全体のお祭りの流れということになると、やっぱりもう少し、先ほど来、渡辺委員さんがおっしゃっていたような形の中で、やっぱりもう少し改善するものは改善する、よくするものはよくする、こういうふうな意味で、できるだけ早い機会におやりになって、そして次に備える。そして、次に備えて、その反省を踏まえた予算を組む。今年度使ったものが次年度の予算に組み替わるのは、予算ではないんですね。要するに、減らすべきものは減らす、ふやすべきものはふやす。そこでこぼこをつけて、そして予算編成をしていって、さらに進化したお祭りにする。ロックフェスティバルなんかも同じ日にやっていて、水戸市でもやっぱり、さらにこのお祭りを盛り上げないと負けちゃうわけですから、だから、やっぱりそういう意味でも、このお祭りがさらに進化するように、ぜひお願いしたいというふうに思います。すみません、ありがとうございました。

○栗原委員長 私のほうで、すみません、皆さんにお諮りしないで指名しました。謝っておきます。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員長 それでは、以上をもちまして本日の産業水道委員会を散会いたします。
御苦労さまでした。

午前11時 2分 散会